Economic Indicators
第一ライフ資産運用経済研究所
Daiichi Life Group

2026 年 11 月 12 日

10 月企業物価指数

～前年比＋7.1%、電力や石油・石炭製品を中心に幾分加速～

経済調査部　主席エコノミスト　阿原　健一郎

（TEL：050-5470-4868）

1.　国内企業物価指数は幾分加速

本日公表された 10 月の国内企業物価指数は前年比＋7.1%と、前月（同＋6.8%）から伸びが幾分加速した。前年比寄与度で内訳を見ると、玄米や豚肉などの「農林水産物」のマイナス寄与が前月から拡大した一方、「電力・都市ガス・水道」や「石油・石炭製品」、「化学製品」のプラス寄与が前月から拡大し、ヘッドラインを押し上げた（図表１）。

背景には、原油やナフサの価格上昇が石油製品や化学製品へ波及していることに加え、電力においても、過去の輸入燃料価格の上昇がタイムラグを伴って燃料費調整単価に反映され、全体を押し上げていることがある。農林水産物の価格下落が一部で下押し要因となっているものの、エネルギー関連を中心としたコスト上昇圧力は依然として根強い。

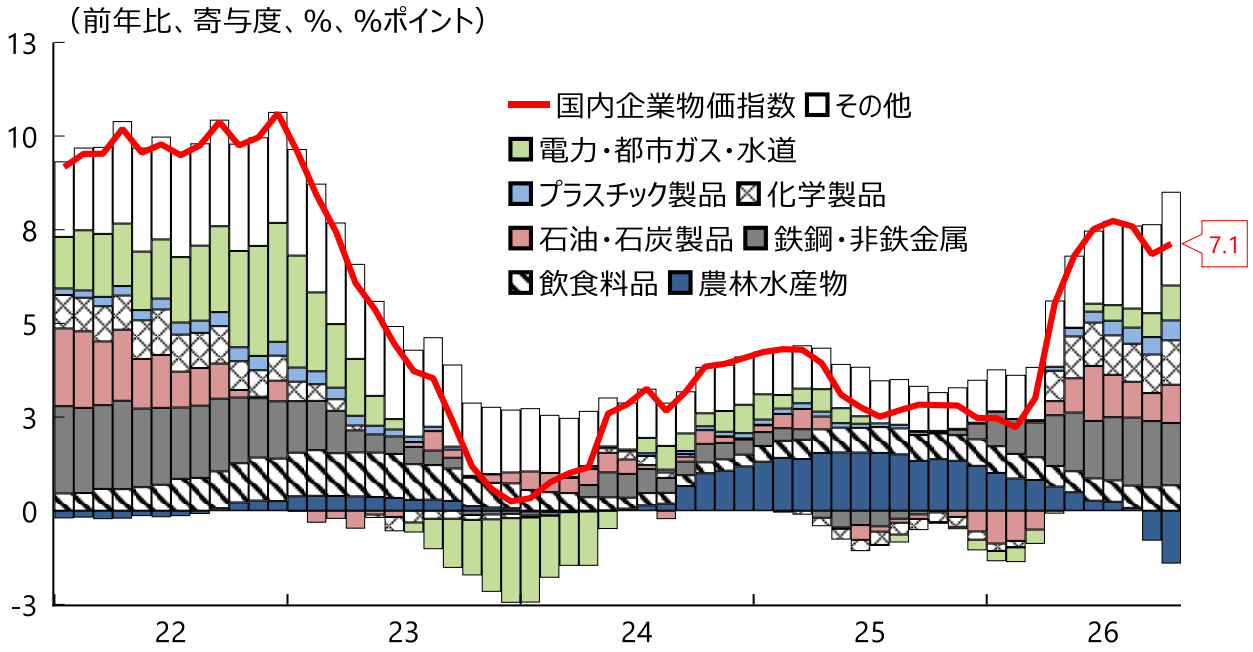
２．　輸入物価指数はわずかに加速

10 月の輸入物価指数は前年比＋24.8%と、前月（同＋23.8%）から伸びがわずかに加速した。「石油・石炭・天然ガス」のプラス寄与が前月から拡大し、ヘッドラインを押し上げた（図表２）。

為替変動の影響を除いた契約通貨ベースでも同＋19.2%と、前月（同＋17.3%）から伸びが拡大しており、海外の資源価格上昇が輸入物価を押し上げている。輸入コストの増加が時間差を伴って国内の製品価格に波及することを踏まえると、先行きも価格転嫁を通じて消費者物価への上昇圧力が残る可能性がある。

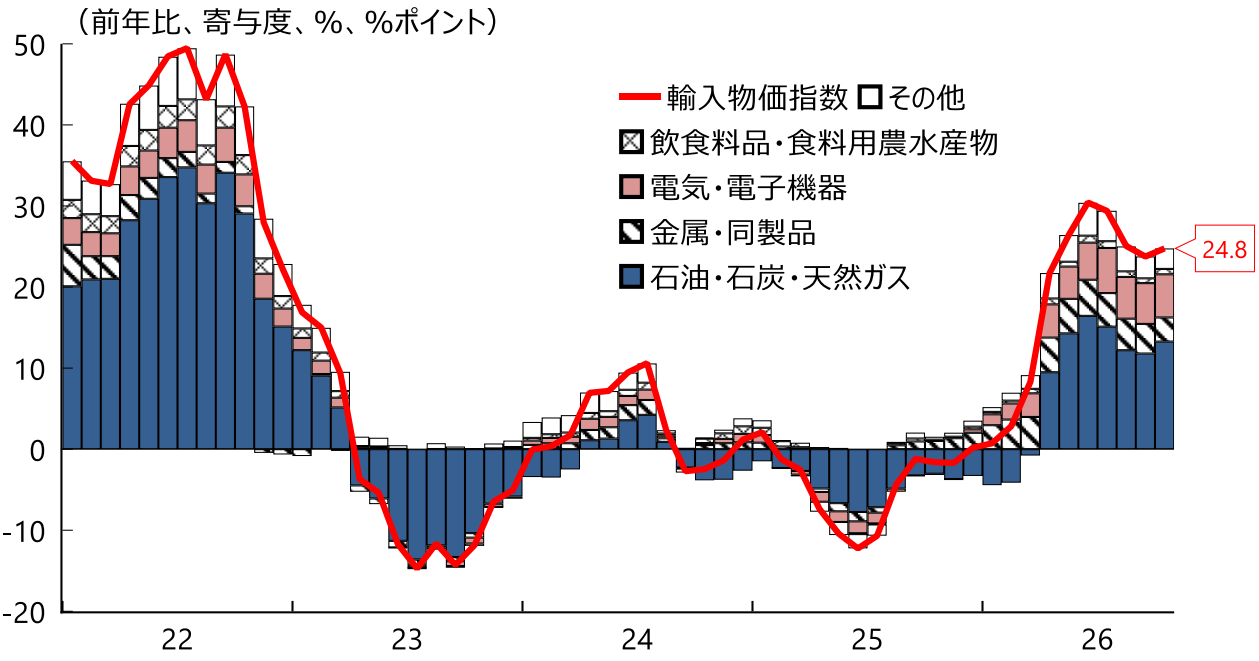
以　上

図表1　国内企業物価指数の推移



（注）直近は 10 月。

図表2　輸入物価指数の推移



（注）直近は 10 月、円ベースの系列。
（出所）Macrobondより第一ライフ資産運用経済研究所作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一ライフ資産運用経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。